



從三位勲二等男爵平田東助以下十七名
勲位進級初叙及勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十六年十二月十四日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

内

閣

二六二

勳章二一七

甲 子百々

明治三十六年十一月六日

為

内閣總理大臣



賞勳局總裁



從三位勳二等男爵平田東助以下十七名
勳位進級初叙及勳章加授儀別紙之通
議定候條此段允裁ヲ仰ク

追テ申立勳章ト擬賞格ト相違スルハ主務省ト
協議濟ニ有之候

内閣

明治卅六年十月三十日

賞勳局總裁

書記官

可

議定官

否

從三位勳二等男爵平田東助以下十七名勳位進級初叙及勳章加授議按

右本年開設セラレタル第五回内國勸業博覽會ノ副總裁トシテ會務ヲ總理シ或ハ事務官長トシテ

賞勳局

諸般ノ事務ヲ掌理シ或ハ審査部長トシテ出品ノ審査ヲ分掌シ或ハ事務官トシテ各課ノ事務ヲ擔任シ或ハ審査官トシテ出品ノ審査ニ從事シ或ハ評議員トシテ本會ノ施設ニ參畫スル等拮据勵精能ク其職責ヲ盡シ終ニ圓滿ノ終局ヲ告クルニ至ル其功績顯著ニシテ平素ノ勤勞亦不少則チ農商務大臣ノ上奏ヲ勘査シ勳等勳章ヲ擬議スル左ノ如シ

元第五回内國勸業博覽會副總裁

敘勲二等授瑞寶章 從三位勲二等男爵 平田東助

茅田内國勸業博覽會評議員審査茅三部長

授旭日重光章 從三位勲二等 村田保

同會審査茅九部長

授旭日重光章 正三位勲二等 辻新次

元茅田内國勸業博覽會事務官長

敘勲二等授旭日重光章從四位勲三等 安廣伴郎

茅田内國勸業博覽會評議員審査茅部長

授旭日中綬章 從三位勲三等 平山成信

今會評議員審査茅七部長

賞勳局

授旭日中綬章 東京高等業學校長從三位勲等手島精一

茅田内國勸業博覽會評議員審査茅五部長

授旭日中綬章 京都高等工藝學校長 中澤岩太

從四位勲三等工部博士

授旭日小綬章 正四位勲四等 武井守正

同會審査茅八部長

授旭日小綬章 文部省實業學務局長兼東京帝國海軍科學校校長從四位勲四等工部博士 真野文二

同會評議員審査茅四部長

授旭日小綬章 從四位勲四等 和田維四郎

同會評議員審査茅六部長

叙勲五等授瑞寶章 正六位勲六等工學博士 平賀義美

同會審査官

授單光旭日章 高寮技師農商務技師從六位勲六等 新山莊輔

同會事務官

授單光旭日章 農商務書記官兼農商務省特許局審判官 農商務省水產官從五位勲六等 磯部正春

同

叙勲六等授單光旭日章 農商務省水產官兼農商務省水產講習院教授從五位 織田一

同

叙勲六等授單光旭日章 農商務書記官兼農商務大臣秘書官 農商務省水產官從六位 山脇春樹

同會審査官

賞勳局

叙勲六等授瑞寶章農商務技師從六位 下啓助

第五回内國勸業博覽會審査官

叙勲六等授瑞寶章 水産講習所技師兼農商務技師從六位 柘川温

叙勳五等授瑞寶章 正六位勳六等工學博士 平賀義美

同會審査官

授單光旭日章 勳六等 農商務技師從勳六等 新山莊輔

同會事務官

授單光旭日章 農商務書記官兼農商務省特許局審判官 農商務省大車官從五位勳六等 磯部正春

同

叙勳六等授單光旭日章 農商務省大車官兼 學習院教授從五位 織田一

同

叙勳六等授單光旭日章 農商務書記官兼農商務大臣秘書 官正位為大車官從六位 山脇春樹

同會審査官

賞勳局

叙勳六等授瑞寶章農商務技師從六位 下啓助

第五回内國勸業博覽會審査官

叙勳六等授瑞寶章 水産講習所技師兼農商務技師從六位 柘川温

内國勸業博覧會ハ其第一回ヲ明治十年ニ第二回ヲ同十四年ニ第三回ヲ同二十三年ニ第四回ヲ同二十八年ニ開キ今回ハ其第五回ニ當レリ而シテ第一回第二回ハ草創ノ時期ニ屬シ設備未タ完カラス第三回ニ至リ始メテ勸業博覧會タルノ體制ヲ具備シ諸般ノ設備漸ク整頓ニ就キ爾來一回ハ一回ヨリ改善擴充ヲ加ヘ今回ニ至テハ殆ト其大成ヲ告クルヲ見ル

農商務省

會場總面積五萬餘坪出品總点数十七萬餘点ニシテ出品ヲ大別シテ工業、美術及美術工藝、農業、森林及園藝、水産、教育及學術、鑛業及冶金術、機械ノ七部ト為シ之ヲ工業、美術、農林、動物、水産、機械、文館ニ陳列シ附屬水族館ヲ兵庫和田岬ニ設ケ開會期間ハ四月ト為シ來觀人負百貳拾餘萬人出品販賣價格二十二萬餘圓ナリ今回ノ博覧會ハ之ヲ大阪天王寺今宮ニ開設シ會場總面積十二萬餘坪出品總点数三十一萬余点ニシテ出品ヲ大別シテ農業及園藝、林業、水産、採鑛及冶金、化

學工業、染織工業、製作工業、機械、教育學術衛生
及經濟、美術及美術工藝、十部ト為シ之ヲ農業、
林業、水産、工業、機械、教育、美術、通運、動物、
水族、台湾、十一館ニ陳列シ植物温室及冷藏
庫ヲ設ケ水族館ハ之ヲ堺公園ニ設置シ参考館
ヲ設ケテ海外十四ヶ國ノ出品ヲ陳列シ以テ一部万
國博覽會ノ觀アラシメ而シテ出品ノ數量ニ比シ
各陳列館ノ建坪狹隘ナルヲ以テ別ニ私費ヲ以テ
陳列館ヲ建設スルヲ許シタルモノ東京大改ニ府
愛知奈良ニ縣ノ別館ヲ始メカナタ館、アンドリユー、

農商務省

エント、ジョーシ館、ホーシ館、マツフエー館、ヘルラー館
ワインベルゲル館等、多キニ及ヒ開會期間ヲ五ヶ月
ト為シ來觀人負五百三十餘万人(内國人 五百三十七万八千人
外國人 二万四千餘人)
出品販賣價格四十七万余円ニ上レリ尚上記兩回ノ
概況ヲ比較スレハ大要別表、如シ
今回ノ博覽會ハ凡百ノ施設、出品ノ陳列、審査ノ方
法等前數回ノ經驗ニ依リ大ニ改善スル所アリ其特
色トシテ視ルヘキモノ一ニシテ足ラヌ加之其陳列館中
通運館、台湾館及外國人ノ出品ヲ陳列シタル參
考館並ニ植物温室、冷藏庫、共ニ前回ニハ未タ曾

テ之レ有ラスシテ今回新ニ之ヲ設置シタルモノニ係リ
開會期間ノ如キモ前回ハ四ヶ月間ナリシヲ今回ハ之
ヲ延長シテ五ヶ月間ト為シ且前回ニハ毎日日没前
閉場シタリシヲ今回ハ毎夜午後十一時ニ至ルマテ開
場シテ公衆ノ入場ヲ許シ場内無數ノ電燈裝飾ヲ
施シテ不夜城ノ美觀ヲ呈セシメタルカ如キモ亦特色
中ノ一トシテ視ルヘキ所ノモノニ屬セリ殊ニ今回ハ

天皇陛下親臨シテ開會ノ式典ヲ舉ケサセラレ又
天皇 皇后 兩陛下ニハ十有四日間隔日ニ各館ヲ
御巡覽アラセラレ尋テ 皇太子同妃 兩殿下及常宮

農商務省

周宮 富美宮 泰宮 各殿下其他各皇族殿下モ亦
悉ク御來觀アラセラレ前回未タ曾テ有ラサル所ノ光
榮ヲ荷ヒタルノミナラス各元老、各大臣、各國公使等
、來觀アリ又載振親王、ゲラルグ親王 兩殿下及加
奈多農務大臣ヲ始メ諸外國貴賓、來觀シタ
ルモノ甚タ多ク盛況更ニ一段ノ盛況ヲ添ヘタリ
前記ノ如ク今回ノ博覽會ハ其規模、擴張セル、
施設、整備セル、出品点数及來觀人員、夥多
ナル等皆前回ニ變絶シ之ヲ勸業博覽會トシテ
能ク成功シタルモト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘシト

信ス而シテ本會ノ盛況前記ノ如クナルニ伴ヒ之ニ関
聯スル諸般ノ事務亦隨テ前回ニ倍シテ複雑繁劇
ヲ極ムルハ必然ノ數ニシテ加フルニ参考館ニ出品シタル
諸外國ヨリハ特ニ事務官ヲ簡派シ万国博覽會ノ
体裁ヲ備ヘタルヲ以テ之カ為ニ在外帝國公使領事
並諸外國政府及其派遣事務官トノ交渉應酬
ノ事務亦頗ル煩煩ニ涉リ職員皆本年一月以
降日曜日一祝祭日ノ休暇ヲ廢止スルハ勿論毎朝
早參シテ夜間開場ニ伴ヒ夜分ニ至ルマテ執
務スルヲ常トシ且出品ノ審査ニ関シテモ出品点
數殆ニト前回ニ倍從シタルノミナラス世運ノ進歩ノ實
業ノ發達トニ伴ヒ其審査ハ最モ精緻ヲ要スルヲ
以テ各出品ノ審査上時日ト勞力トヲ費シタルコ
ト亦前回ノ比ニアラス而カモ前回ニ比シ諸般ノ事
務増加シタル割合ニ職員ヲ増置セズ比較的
少數ノ吏員ヲ以テ處理上毫モ遺算ナク終ニ
圓滿ノ結局ヲ見ルニ至リ實業獎勵ノ聖旨ニ
副フコトヲ得タルハ畢竟本會關係各員皆夙
夜黽勉シテ事ニ從ヒタルノ致ス所ニ外ナラス又
本會ノ開設地タル大政府ニ於テハ知事以下各官

及大阪、堺両市長以下其他両市、有力者中或
ハ本會、評議負ヲ以テ其施設ニ参畫シ或ハ市
ノ事業トシテ諸般ノ附帯設備ヲ為シ以テ本會
設備ノ足ラサル所ヲ補ヒ或ハ博覽會協賛會ヲ組
織シテ施設スル所アル等直接間接ニ本會ノ事
業ヲ翼賛シ其功勞著大ナルハ前回ニ其比ヲ見
ナル所ナリ畢竟本會々好結果ヲ得タルニ付テハ
此等大ニ與テカアリトス

農商務省

今ヤ本會ハ已ニ閉會ヲ告ケ残務、整理亦備ニ
就キタルヲ以テ前記本會關係者中拔群ノ功勞
アル者ニ限り前例ニ倣ヒ特ニ榮典ヲ授與シテ之ヲ
表彰セラルニ於テハ一ハ以テ勸業ノ一端ト為リ一ハ
以テ一般有司ノ獎勵ト為ルヘシト視認スルニ依リ乃
チ慎重精密ニ其績ヲ考ヘ其尤ヲ拔キ茲ニ勲
績顯著ナル者百五十八人ヲ得各別ニ其功勞ヲ叙
シ賞格ヲ擬シ別紙ヲ以テ及奏請候条至急夫
々行賞ノ御詮議相成候様致度此段上申候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第四回及第五回内國勸業博覧會概況比較表

種 類	第 四 回	第 五 回	増
敷 地 面 積	五八、六四六、二五	一三一、八七七、六八	六三、三三一、四三
各館建物總坪數	八、九三二、〇〇	一六、四一〇、一四	七、四七八、一四
出 品 点 數	点数 一七〇、〇五〇 人員 七三、八四四	点数 三一〇、四四二 人員 一三一、四四七	一四〇、三九二 五七、六〇三
褒 賞 數	一七、七二九	三七、五六三	一九、八三四
賣店敷地總坪數	二、三一八、五	五、六三〇、四三	三、三一、九三
會 期	四月一日ヨリ 七月三日ヲ 一 二 二 日	三月一日ヨリ 七月三日ヲ 一 五 三 日	三 一 日
觀覽人數	本館 内國人 外國人 水族館 内國人 外國人	四、三二七、五七三人 二、三一、一二〇 九五三、二一四 一、三〇二	三、二一三、九九八 八五七、八〇九
出 品 販 賣 類	三、四、七、九七、〇三三	四、七、〇、〇三一、六一八	二、四、五、二、三四、五六五
賣 店 販 賣 額	二、六一、七二一、三三二	一、八七、七、三二一、九一七	一、六一、五、六〇、五八五
場 内 諸 營 業	二、八一、〇、 五八八	二、一、七、一、 二、七、七、人	九、 三、六一、 二、一九、人
前 回 ニ ナ ク シ テ 今 回 新 ニ 施 設 シ タ ル モ ノ			
一 参 考 館	本 館 (一、七、〇、八、坪 三、三)		
	私 費 建 設 別 館		
	カナダ館	七、三〇、九五	
	アンドリヤー、エント、ジヨール館	二〇、八、〇〇	
	ホーン館	一九、八、〇〇	
		一、六、八、〇〇	

農商務省

マップエー館

二七、一〇

ヘルラー館

一〇五、〇〇

ワインベルグ館

二四、七五

海外十四箇国ヨリ出品者アリタルコト

カナダ、米國オレゴン、蘭領印度、清國江蘇、四川、

福建、山東各省、韓國、葡萄牙國ハ各事務官ヲ

派遣シ萬國博覧會ノ體裁ヲ備ヘ之カ為ニ在外

帝國公使領事並諸外國政府トノ交渉事務ハ勿

論通関其他ノ事務ヲ増加シタルコト

一建増別館

農商務省

今回、博覧會出品出願ノ点数ハ非常ニ多數ニシテ

到底悉ク之ヲ許可スルコト能ハサルヲ以テ非常ノ削

減ヲ加ヘタルニヨリ

東京府

四七〇 教育館
工業館

大阪府

一〇一、五 教育館
工業館

愛知縣

二七五 工業館

奈良縣

六一 工業館

ノ建増ヲ私費ニテ建築シ出品ノ陳列ニ供セリ
其餘個人
否社等

ノ私設ニ係ルモノ
カカス

一通運館 (七五六坪)

今回ハ新ニ本館ヲ建築シテ本邦海陸交通ノ發達
進歩ノ顕著ナルコトヲ表明セリ

一冷蔵庫、植物温室ヲ新設シテ公衆ノ知見ヲ開拓
セリ殊ニ冷蔵庫ハ觀覽人ノ注目ヲ惹キ毎日四五
千人乃至一万人ノ多衆其入口ニ群集スルヲ常トセリ
一臺灣館（五二九坪五合一夕）

新領土ノ情況ヲ紹介セリ
一イルミ子ーション

本邦ニ於テ始メテ此イルミ子ーションヲ會場各館ニ
裝置シ不夜城ノ美觀ヲ呈シ毎夜午夜十一時迄公

農商務省

衆ノ入場ヲ許可シ毎夜一万人以上ノ入場ヲ常トシ多
キハ二三万ノ多數入場シタルコトアルヲ以テ之ニ伴ヒ夜間ニ
於ケル事務モ亦從テ數カラサリシ

職員ノ比較

合計	全 雇 員	全 幹 事	農商務省							第 四 回	第 五 回	増 減
			審査部長	書記	事務官	事務官長	審査官	審査官長	副 總 裁			
四二六	四一	一	七	一〇七	九	二	二五六	一	一	一		
四八〇	八二	〇	一〇	一〇九	一〇	一	二六五	一	一	一		
増	増	減	増	増	増	減	増					
五四	四一	一	三	二	一	一	九					

元第五回内國勸業博覽會副總裁

從三位勲二等男爵平田東助

右明治三十四年六月二日農商務大臣ニ任セラルヤ
第五回内國勸業博覽會事務局官制第四條ニ依リ
テ同會副總裁トナリ審査總長事務官長以下ノ職
負ヲ統督シテ該會ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ能
ク其任務ヲ完フセリ抑モ第五回内國勸業博覽會
ハ世運ノ進歩ト實業ノ發達トニ伴ヒ前回ニ比シテ
大ニ其規模ヲ擴張シ出品ノ總点数二十七万余ノ

農商務省

多ニ上リ前回ニハ其出品ヲ大別シテ七部トナシ之ヲ大
館ニ陳列シタルモ今回ハ之ヲ十部ニ大別シテ十一館ニ
陳列シ且新ニ參考館ヲ設ケテ海外十四ヶ國ノ出品
三万余点ヲ陳列シテ一部万国博覽會ノ觀ヲ呈セシ
メ加之夜間開場ノ制ヲ創メ毎夜公衆ノ入場ヲ許
シ殊ニ從來開會ノ期間四ヶ月ナリシヲ今回ハ之ヲ
延長シテ五ヶ月ト為シタル等前數回ノ博覽會ニ比シ
テ大ニ改善擴充シタルヲ以テ諸般ノ事務隨テ紛
糾錯雜ヲ極メタルニモ拘ハラズ拮据鞅掌凡百ノ施
措皆其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ終ニ圓滿ノ終

局ヲ告ゲ前回未タ曾テ見サル所ノ好結果ヲ収ルニ
 至リタルハ畢竟同人ノ功勞多ニ居リ其勲績顯著ナ
 ルヲ確認ス而シテ同人ノ去ル明治三十一年六月勲二等叙
 シ瑞寶章ヲ授ケラレ其翌三十二年旭日重光章ヲ
 授ケラレ爾末在官年數未タ叙勲内則ノ定限ニ
 達セサルモ明治三十一年十月ヨリ同三十三年十月至
 ルマテ法制局長官トシテ超衆ノ勤勞アルノミナラス北清
 事變ニ際シテモ亦其功勲カラス尋テ明治三十四年
 六月ヨリ本年七月マテ農商務大臣ヲ以テ入テ國
 務ニ鞅掌シ出テハ省務ニ盡瘁シタルミナラス本會
 副總裁トシテノ勲勞顯著ナリト前陳ノ如クナルニ依
 リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ相當叙
 勲ノ御詮議相成候様致度履歷書ヲ具シ此段
 及上奏候也

農商務省

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

第五回内國勸業博覽會評議負審査第三部長

從三位勲二等 村田 保

右明治三十四年一月第五回内國勸業博覽會評議負ト為リ同會ノ施設ニ參畫シ尋テ同年十一月同會審査第三部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査官ヲ指揮督勵シテ擔當部門出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラス周到綿密其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ

農商部省

盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治二十四年三月勲二等ニ叙シ瑞寶章ヲ賜ハリシ以來民法商法施行取調委員法典調查委員水産調査會長第四回内國勸業博覽會評議負兼同會審査官第二回水産博覽會審査官長臨時博覽會評議負農商工高等會議負塩業調査會會長等ト為リ勤勞甚ナカラサルノミナラス今回審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀ク其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様

御詮議相成度履歴書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣総理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査第九部長

正三位勲二等 近 新次

右明治三十四年十一月第五回内國勸業博覽會審査第九部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下各審査官ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ審査ニ従事シ今回ノ出品ハ前回ニ倍茂シ審査上非常ノ困難アリタルニ拘ハラズ周到綿密其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去ル明治二十五年八月

農商務省

勲二等ニ叙シ瑞寶章ヲ賜ハリシ以來十一月ニ至ルマテ文部次官ノ職ヲ奉シ勤勞甚カラス同月退官以來ハ高等教育會議ハ員大日本教育會々長帝國教育會長東京市教育會評議員會議長等ト為リテ大ニ力ヲ教育ノ普及發達ニ盡シタルノミナラス今回審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎五



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會事務官長

農商務省事務官 從四位勳三等 安廣伴一郎

右明治三十四年六月ヲ以テ第五回内國勸業博覽會事務官長ト為リ副總裁ヲ輔翼シ事務官以下ノ職員ヲ督勵シテ該會ニ關スル諸般ノ事務ヲ處理シ能ク其任務ヲ完フセリ抑モ第五回内國勸業博覽會ハ世運ノ進歩ト實業ノ發達トニ伴ヒ前回ニ比シテ大ニ其規模ヲ擴張シ出品總點數二十七萬餘ノ多ニ止リ且新ニ參考館ヲ設ケテ海外十四ヶ國ノ出品三萬餘

農商務省

點ヲ陳列シテ一部万国博覽會ノ觀ヲ呈セシメ加之夜間開場ノ制ヲ創メ毎夜公衆ノ入場ヲ許シ殊ニ從來開會ノ期間四ヶ月ナリシヲ今回ハ之ヲ延長シテ五ヶ月ト為シタル等前數回ノ博覽會ニ比シテ大ニ改善擴充シタルヲ以テ諸般ノ事務隨テ複雜繁劇ヲ極メタルニモ拘ハラズ夙夜勵精事ニ從ヒ措置其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ終ニ圓滿ノ終局ヲ告ケ前回未タ曾テ見サル所ノ好結果ヲ收ムルニ至リタルハ同人參畫ノ功多ニ居リ其勲績顯著ナルヲ確認ス尤同人ハ曩ニ北清事變ニ關スル内閣書記官長在職

第五回内國勸業博覽會事務官長

農商務總務長官從四位勳三等 安廣伴一郎

右明治三十四年六月ヲ以テ第五回内國勸業博覽會事務官長ト爲リ副總裁ヲ輔翼シ事務官以下ノ職員ヲ督勵シテ該會ニ關スル諸般ノ事務ヲ處理シ能ク其任務ヲ完フセリ抑モ第五回内國勸業博覽會ハ世運ノ進歩ト實業ノ發達トニ伴ヒ前回ニ比シテ大ニ其規模ニ擴張シ出品總點數二十七萬餘ノ多ニ止リ且新ニ參考館ヲ設ケテ海外十四ヶ國ノ出品三萬餘

農商務省

點ヲ陳列シテ一部万国博覽會ノ觀ヲ呈セシメ加之夜間開場ノ制ヲ創メ毎夜公衆ノ入場ヲ許シ殊ニ從來開會ノ期間四ヶ月ナリシヲ今回ハ之ヲ延長シテ五ヶ月ト爲シタル等前數回ノ博覽會ニ比シテ大ニ改善擴充シタルヲ以テ諸般ノ事務隨テ複雜繁劇ヲ極メタルニモ拘ハラズ夙夜勵精事ニ從ヒ措置其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ終ニ圓滿ノ終局ヲ告ケテ前回未タ曾テ見サル所ノ好結果ヲ收ムルニ至リタルハ同人參畫ノ功多ニ居リ其勲績顯著ナルヲ確認ス尤同人ハ曩ニ北清事變ニ關スル内閣書記官長在職

中ノ功勞ニ對シ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ爾
來在職年數未タ叙勲内則ノ定限ニ達セサルモ現
ニ農商務總務長官トシテ勤勞尠カラサルノミナラス
今回博覽會事務官長トシテノ勲績著大ナルト前
記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特
ニ勲二等ニ叙シ旭日章ヲ授ケラレ候様御詮議相成度
履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



農商務省

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

第五回内國勸業博覽會評議員審査第十部長

從三位勲三等 平山成信

右明治三十四年五月第五回内國勸業博覽會評議員ト爲リ同會ノ施設ニ參畫シ尋テ同年十一月同會審査第十部長ト爲リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査官ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密其精粗ヲ查覈シテ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成

農商務省

績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治三十二年十二月勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ以來大藏省參與官ヲ以テ行政裁判所評定官ヲ兼ネ關稅率ニ關スル調査委員ト爲リ同三十三年巴里萬國博覽會開設ノ際ハ同會附屬萬國學藝會議ノ内關稅規則動產不動產萬國會議ニ委員トシテ參列ヲ命セラレ尋テ參與官廢セラレ、ヤ更ニ大藏省官房長ト爲リ同年十月ニ至ルマテ其職ニ在リテ勤勞尠カラサルノミナラス今回審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ

徴シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會評議員審查第七部長

東京高等工業學校^長從四位勲三等 手嶋精一

右明治三十四年一月第五回内國勸業博覽會評議員ト
為リ同會、施設ニ參畫シ尋テ同年十一月同會審査
第七部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査官ヲ
指揮督勵シテ拮据鞅掌擔當部門出品ノ審査ニ從事
シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非常ノ困難アリ
タルニモ拘ハラズ周到綿密其精粗ヲ查覈シテ處理
其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績顯著ナル

農商務省

ヲ確認ス而シテ同人ハ曩ニ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授
ケラレ爾來未タ叙勲内則、定限ニ達セサルモ東京高等
工業學校長トシテ勤勞尠カラサルノミナラス今回審査
部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ
冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徵シ此際特ニ現ニ有スル所ノ
勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮議相
成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會評議員審查第五部長

京都高等工藝學校長從罷勲三等工學博士 中澤 岩太

右明治三十四年五月第五回内國勸業博覽會評議員
ト為リ同會ノ施設ニ參畫シ尋テ同年十一月同會審
査第五部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査
官ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ
審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍蓰シ審
査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密ニ其
精粗ヲ查覈シテ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ

農商務省

盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ノ曩
ニ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ爾來未タ叙勲
内則ノ定限ニ達セサルモ京都高等工藝學校長ト
シテ勤勞尠カラサルノミナラス今回審査部長トシテ
勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其
勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等
ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮議相成
度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査第二部長

正四位勲四等 武井守正

右明治三十五年五月第五回内國勸業博覽會審査第二部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査官ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍蓰シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治二十二年六月勲四等ニ叙シ瑞寶

農商務省

章ヲ賜ハリシ以來同二十四年四月ニ至ルマテ鳥取縣知事ノ職ニ在リ尋テ同二十五年一月石川縣知事ト為リ同年二月退官シ後土木會委員日本興業銀行設立委員等ト為リ勤勞尠カラサルノミナラス今回審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮議相成度此段履歷書ヲ具シ及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎五郎



内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査第八部長

文部省實業學務局長兼東京帝國大學工科大学教授五位勲三等實業博覽會真野文二

右明治三十六年一月第五回内國勸業博覽會審査官ト為リ
第八部出品ノ審査ニ服シ尋テ同年四月同會審査
第八部長ト為リ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審査官
ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ審査
ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非
常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密其精査ヲ
査覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功

農商務省

勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治三十
二年十二月勲四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ以來文
部省實業學務局長ヲ以テ東京帝國大學工科大
學教授ヲ兼ネ勤勞勤カラサルノミナラス今回審査
部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ
冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル
所ノ勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様御詮
議相成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會評議員審査第四部長

從四位勲四等 和田維四郎

右明治三十四年第五回内國勸業博覽會評議員ト
為リテ本會ノ施設ニ参畫シ尋テ同年十一月同會審
査第四部長ト為ルヤ審査總長ヲ輔ケ部下ノ各審
査官ヲ指揮督勵シテ拮据鞅掌擔當部門出品ノ
審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審
査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密其精
粗ヲ査覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ

農商務省

其功勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去ル明
治三十三年六月勲四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレシ
以來同三十五年二月ニ至ルマテ製鐵所長官ノ職ヲ奉
シ職務ニ勵精シ勲勞甚カラサルノミナラス今回
審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナル
ニ依リ冀クハ其勲績ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ
有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章ヲ授與セラレ候様
御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也
明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎五



内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會評議員審查第六部長

正六位勲六等工學博士 平賀義美

右明治三十四年十一月第五回内國勸業博覽會審查第六部長ト爲リ、審査總長ヲ輔ケ部下、各審査官ヲ指揮督勵シテ拮据執掌擔當部門出品ノ審査ニ從事シ今回、出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ周到綿密其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得又同三十五年二月ヲ以テ同會評議員ト爲リ同會ノ施設ニ參畫シ並ニ能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績

農商務省

顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治二十九年三月勲六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレシ以來臨時博覽會評議員兵庫縣主催開設第六回關西府縣聯合共進會審查長、農商工高等會議臨時議員、第二回五二會全國品評會審查長、大坂工業學校商議委員、高等工業學校創立設計委員、大阪博物場長等ト爲リ且本省ノ囑託ヲ受ケテ歐米各國商工業ノ狀況ヲ視察スル等勤勞尠カラス又大阪商品陳列所長トシテ直接間接ニ商工業ノ發達ヲ幫助シタルノミナラス今回審査部長トシテ勲績ノ著大ナルコト前記

ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特
ニ勲五等ニ叙シ旭日章ヲ授ケラレ候様御詮議相
成度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣総理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査官

主馬寮技師兼農務技師是位

一等 新山莊輔

右明治三十五年十二月第五回内國勸業博覽會審査官ト為り第一部出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ倍獲シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ拮据艱學周到綿密ニ其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其勲勞成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治三十二年十二月勲六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレシ以來主馬寮技師兼農商務技師ト

農商務省

シテ職務ニ勵精シ種牛改良調査委員、京都府主催開設第一回京攝府縣聯合家畜共進會審査長、岡山縣主催開設第二回中國五縣聯合畜産共進會審査長ト為リ其任務ヲ完フシ勲勞尠カラズ殊ニ今回博覽會審査官トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徵シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章下賜、御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及奏請候也

明治三十六年九月二日

第五回内國勸業博覽會審査官

主馬寮技師兼商工部六位勲六等 新山莊輔

右明治三十五年十二月第五回内國勸業博覽會審査官ト為リ第一部出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆上前回ニ倍蓰シ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラス拮据艱學周到綿密ニ其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其勲勞成績顕著ナルヲ確認ス而シテ同人ハ去明治三十二年十二月勲六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレシ以來主馬寮技師兼農商務技師ト

農商務省

シテ職務ニ勵精シ種牛改良調査委員、京都府主催開設第一回京攝府縣聯合家畜共進會審査長、岡山縣主催開設第二回中國五縣聯合畜産共進會審査長ト為リ其任務ヲ完フシ勲勞尠カラズ殊ニ今回博覽會審査官トシテ勲績ノ著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ現ニ有スル所ノ勲等ト同等ノ旭日章下賜、御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及奏請候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎五郎



内閣総理大臣伯爵桂 太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會事務官

農商務書記官兼農商務特許局審判官農商務參事官從五位勲三等磯部正春
右明治三十三年六月第五回内國勸業博覽會事務官ト為リ庶務會
計ニ課長ヲ以テ同會事務局大阪出張所ニ出張シ今回ノ博覽會
ハ前回ニ比シ大ニ其規模ヲ擴張シ新ニ規畫施設シタルモノ尠カラ
サルヲ以テ諸般ノ事務隨テ複雑繁劇ヲ極メタルニモ拘ハラズ拮
据執掌課負ヲ指揮督勵シテ周到綿密ニ之ヲ處理シ措置
皆其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確
認ス而シテ同人ハ曩ニ勲六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ爾

農商務省

來在職年數未タ叙勲内則ノ定限ニ達セサルモ多年農商
務省ニ在リテ特許局審判官、參事官、書記官ニ歷任シ
森林法調査委員、特許意匠及商標三條例改正調査
委員、職工條例調査委員、條約實施委員、林野下厩審
査委員、特許代理業者試驗委員等ト為リ能ク其任務ヲ
完ラシ勤勞尠カラサル、ミナラス今回事務官トシテ勲績ノ
著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ
此際特ニ勲五等ニ叙シ旭日章ヲ授ケラレ候様御詮議相成
度履歷書ヲ具シ此段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會事務局

農商務省參事官兼農商務省秘書官學習院教授新設官位織田一

右出身以來數官ニ歷任シ勲勞成績尠カラス殊ニ去明治三十三年第五回内國勸業博覽會官制發布ト共ニ事務局ニ任セラレ出品審査ニ課長ヲ以テ出品及審査ニ関スル事務ヲ擔任シ同會事務局出張所ヲ大阪ニ設置スルヤ常ニ同所ニ出張シ事務局長不在ノ際ハ首席事務局トシテ其事務ヲ代理シ今回ノ博覽會ハ前回ニ比シ大ニ其規模ヲ擴張シ新ニ規畫施設シタルモノ尠カラサルヲ以テ諸般ノ事務隨テ複

農商務省

雜敏劇ヲ極メタルニモ拘ハラス拮据鞅掌課負ヲ指揮督勵シテ周到綿密ニ之ヲ處理シ措置其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞成績顯著ナルヲ確認ス加之同人ハ多年農商務省ニ在リテ參事官特許局審判官書記官秘書官ニ歷任シ足尾銅山鑛毒調査委員農商工高等會議幹事臨時博覽會事務局特許意匠及商標三條例改正調査委員職工條例調査委員農商工統計ニ関スル特別調査委員森林法調査委員林野下戻審査委員特許代理業者試驗委員府縣聯合共進會調査委員等ト爲リ或ハ商工業調査爲メ清國へ派遣セラレ或ハ工場及職工ニ関スル調査ヲ命セ

ラル、等皆能ク其任務ヲ完フシ勤勞尠カラス其在職年
數モ叙勲内則ノ例ニ依リ計算スレハ殆ト初叙、定限ニ達スル
ノミナラス今回事務官トシテ本會ノ當初ヨリ終局ニ至ルマテ
其職務ニ執掌シ勤績、著大ナルコト前記ノ如クナルニ依リ
冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ勲五等ニ叙シ旭日
章ヲ授與セラレ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段
及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



農商務省

内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

第五回内國勸業博覽會事務官

農商務書記官兼農商務大臣秘書官大藏省参事官位 山脇春樹
右出身以來數官ニ歷任シ勲勞成績甚カラス殊ニ明治三十四
年九月第五回内國勸業博覽會事務官ト為リ文書課長ヲ
以テ屢々同會事務局大阪出張所ニ出張シ今回博覽會ハ前
回ニ比シ大ニ其規模ヲ擴張シ新ニ規畫施設シタルモノ甚カ
ラサルヲ以テ諸般ノ事務隨テ複雑繁劇ヲ極メタルニモ拘ハ
ラス拮据執掌課負ヲ指揮督勵シテ周到綿密ニ之ヲ
處理シ措置皆其宜ヲ得能ク其職責ヲ盡シ其功勞

農商務省

成績顯著ナルヲ確認ス而シテ同人ノ在職年數ハ未夕叙
勲内則ノ定限ニ達セサルモ去明治三十四年以來當省ニ在
リテ秘書官書記官ニ歷任シ文官普通懲戒委員文官
普通試驗委員ト為リ勤勞甚カラサルノミナラス今回事
務官文書課長トシテ同會ニ關スル機務ヲ擔任シ殊ニ
儀式ニ關スル事項ハ同課ノ主管ニ屬スルヲ以テ開會禮
賞授與開會ノ三大式典ハ勿論 聖上皇后兩陛下皇
太子同妃兩殿下ノ行幸啓ヲ始メ各親王殿下ノ御來觀並
内外貴賓來觀ノ際ハ同人主務課長トシテ專ラ其衝ニ
當リ鞠躬如トシテ事ニ從ヒ諸事毫モ阻碍ヲ來スコト

ナク能ク其任務ヲ完ノシタル等其勲績殊ニ著大ナル依
リ冀クハ其勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ勲六等ニ叙シ旭
日章ヲ授ケラレ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此
段及上奏候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎五



内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査官

農商務技師 從六位 下 啓 助

右明治三十六年二月第五回内國勸業博覽會審査官ト
爲リ第三部出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回ニ
倍獲レ審査上非常ノ困難アリタルニモ拘ハラズ拮据艱
辛周到綿密、其精粗ヲ査覈シ處理其宜ヲ得能ク
其職責ヲ盡シ其勲績顯著ナルヲ確認ス加之同人ハ
明治十七年以來當者、在リテ教官ニ歷任シ十二年以
上ヲ經過シ殊ニ現官ニ任セシ以來水産調査會幹事、

農商務省

水産局水産課長、第五回水産博覽會事務官塩業調
査會幹事等ト爲リ又或ハ水産視察ノ爲メ清國ニ派遣
セラレ或ハ巴里萬國博覽會附屬萬國學藝會議内水
産及漁業万国會議委員トシテ佛國ニ差遣セラレ能ク其
任務ヲ完スル等勤勞尠カラサルニ依リ冀クハ前記勲勞ノ
實蹟ニ徴シ此降特ニ勲六等、叙レ瑞寶章ヲ授與セラレ
候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此段及奏請候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

農商務省

第五回内國勸業博覽會審査官

水産講習所技師兼農商務技師

仁柁川 温

右明治三十六年二月第五回内國勸業博覽會審査官ト
爲り第三部出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回
ニ倍蕪シ審査上非常ノ困難アリテモ拘ハラズ拮据艱
辛周到綿密ニ其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク
其職責ヲ盡シ其勲績顯著ナルヲ確認ス加之同人ハ去
明治十八年以來當者ニ在リテ教官ニ歷任シ十二年以上ヲ
經過シ殊ニ現官ニ任セシ以來水産講習所試験部長

農商務省

第二回水産博覽會審査官等ト爲リ又屢々各縣開設
共進會
ノ審査官ト爲リ且水産業視察ノ爲メ佛領印度及清國
ニ派遣セラシ能ク其任務ヲ完フル等勤勞尠カラズ冀クハ
前記勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ勲六等ニ叙シ瑞寶章
ヲ授與セラシ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此
段及奏請候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

第五回内國勸業博覽會審査官

農商務技師兼水産講習所技師從六位 柘川 温

右明治三十六年二月第五回内國勸業博覽會審査官ト
爲リ第三部出品ノ審査ニ從事シ今回ノ出品ハ殆ト前回
ニ倍莖シ審査上非常ノ困難アリテモ拘ハラズ拮据艱
辛周到綿密ニ其精粗ヲ查覈シ處理其宜ヲ得能ク
其職責ヲ盡シ其勲績顯著ナルヲ確認ス加之同人ハ去
明治十八年以來當者ニ在リテ教官ニ歷任シ十二年以上ヲ
經過シ殊ニ現官ニ任セシ以來水産講習所試験部長

農商務省

第二回水産博覽會審査官等ト爲リ又屢々各縣開設
共進會
ハ審査官ト爲リ且水産業視察ノ爲メ佛領印度及清國
ニ派遣セシ能ク其任務ヲ完フル等勤勞尠カラズ冀クハ
前記勲勞ノ實蹟ニ徴シ此際特ニ勲六等ニ叙シ瑞寶章
ヲ授與セシ候様御詮議相成度履歷書ヲ具シ此
段及奏請候也

明治三十六年九月二日

農商務大臣男爵 清浦奎吾



内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 殿

平田 東 助

舊 藩 未 澤 藩
舊 氏 名

氏 名	年 號 月 日	官 記 辭 令 及 其 他 事 故	官 廳
	明治廿七年一月廿九日	任樞密院書記官長	内 閣
	壬午三月	叙高等官二等	内 閣
	廿九年十月十二日	叙高等官一等	内 閣
	廿九年六月廿八日	條約實施準備委員被仰付	内 閣
	叙勲二等授瑞寶章		賞 勲 局
	七月十八日	法典調查會委員被仰付	内 閣
	條約實施準備委員被免		内 閣
	十一月八日	任法制局長官兼内閣恩給局長	内 閣
	叙高等官一等		内 閣
	同日	兼任樞密顧問官	農 商 務 省
	十二月二日	文官高等試驗委員長被仰付	農 商 務 省
	依願免兼樞密顧問官		農 商 務 省
	政府委員被仰付		農 商 務 省
	三年二月廿五日	鐵道国有調査會委員被仰付	農 商 務 省
	四月十三日	文官普通懲戒委員長ヲ命ス	農 商 務 省
	十一月廿日	政府委員被仰付	農 商 務 省
	十二月廿日	條約實施準備委員及法典調査委員	農 商 務 省
	職ヲ奉シ條約實施事項、調査ニ從		農 商 務 省
	事ニ勤勞不勤ニ付旭日重光章ヲ授ケ賜フ		農 商 務 省
	授旭日重光章		農 商 務 省
	條約實施準備委員及法典調査委員		農 商 務 省
	職ヲ奉シ勤勞不勤ニ付金杯一組ヲ副		農 商 務 省

賜

三十三年十月廿日 依願免本官並兼官

十月十日 特旨ヲ以テ位一級被進

叙從三位

十二月廿日 錦鷄副祇候被 仰付

三十四年六月二日 任農商務大臣

第五回内國勸業博覧會副總裁 (官制依)

十二月廿日 年当トシテ 金五百圓 依此ス

三十五年二月廿七日 依勲功特授男爵

特旨ヲ以テ華族ニ被列

四月 商工業視察、為京都大坂二府及兵庫

奈良三重愛知香川五縣、出張

六月 静岡縣、出張

農 務 省

第五回内國勸業博覧會事務局

六月十九日 年当トシテ 金六百圓 依此ス

三十五年二月 大坂府、出張 (博覧會ニ関スル用務)

四月 大坂府、出張 (同席司、臨場)

六月 大坂府、出張 (廣津橋興司、臨場)

七月十一日 臨時博覧會總裁 (官制依)

同日 十七日 年当トシテ 金六百圓 依此ス

同日 依願免本官

第五回内國勸業博覧會事務局

氏名	官職	年月日	事由	賞状	
				種類	金額
村田保	内閣	明治廿三年九月三十日	貴族院令第一條第四項に依り貴族院議員に任ず	勲章	
		十月廿一日	在職中特別勲勵に付其賞として別紙目録を通下賜す	勲章	
		全廿四年四月四日	法律取調事務勲励に付為慰勞	金	八百圓
		全廿五年五月五日	法律取調委員被仰付	金	八百圓
		全廿五年十月七日	民法商法施行取調委員被仰付	金	八百圓
		全廿六年四月十三日	法典調査會主査委員被仰付	金	二百圓
		全廿六年五月八日	水産調査委員會委員長被仰付	金	二百圓
		全廿六年八月十一日	茅田回内閣勸業博覧會評議員被仰付	金	二百圓
		全廿六年七月十二日	漁場調査監督為伊豆七島へ出張ノ漏託す	金	二百圓
		全廿七年一月十六日	水産物官視察ノ為、關西府縣聯合水産共進會へ臨場ヲ囑託ス	金	二百圓
全廿七年一月十六日	地方へ出張ヲ囑託ス	金	二百圓		
全廿七年一月十六日	京都府滋賀縣へ出張ヲ囑託ス	金	二百圓		
全廿七年一月十六日	水産業視察、為、山陽道及四國福岡大分地方へ出張ヲ囑託ス	金	二百圓		

三月廿一日	法典調査會委員被仰付	内閣
四月廿八日	製塩試験場選定、為、神奈川千葉二縣 下、出張ヲ囑託ス	農商務省
五月廿一日	叙正四位	
七月十三日	明治廿七年勅令第二十三号ノ旨ニ依リ大 婚二十五年祝典之ニ奉テ授典ス	賞勳局
九月十五日	澳場調査及澳業上視察、為、高知福岡 大分三縣下、出張ヲ囑託ス	農商務省
十二月十八日	千葉神奈川兩縣下、出張ヲ囑託ス	全
二十八年一月二十日	第四回内國勸業博覽會審査官兼務 被仰付	内閣
二月十二日	山口縣下、出張ヲ囑託ス	農商務省
全 二十日	第四部長、命ス	第四回博
三月十五日	兵庫縣下水族部へ出張ヲ命ス	全
五月十五日	水産調査會々長被仰付	内閣
二十九年二月十三日	大阪府及兵庫縣下、出張ヲ命ス	第四回博
三月十九日	銀牌 審査事務特別勲励、日金貳百圓參拾圓 賞与ス	全
全 二十九日	多年水産ノ業ニ竭力シ明治三十八年第四回内國 勸業博覽會ニ勤勉シ其功効顯著ナルヲ以テ 藍綬褒章、銀盃壹組副賜候事	賞勳局
全 二十九日	第七回帝國議會召集、際扇精ニ付銀盃壹組ヲ 賜フ	全
四月三十日	第二回水産博覽會審査官長被仰付	内閣
九月二十日	秋田山形新潟富山石川福井鳥取島根	

山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、三縣下、出張ヲ命ス	茅二水博
秋田、山形、新潟出張ノ序ヲ以テ琦玉縣下、出張ヲ命ス	内 同
臨時博覽會評議員被仰付 事務特別勉勵ニ付金四百圓賞與ス 出品ニ関スル事項ノ調査ヲ囑託ス 明治二十七八年戦役ノ際敵國ハ旨意ヲ以テ有志共同軍用品ヲ献納シ及從軍者家族扶助ノ爲メ金五圓寄附候段奇特ニ優待爲其官員未盡是組下賜俎事	内 同 茅二水博 賞 勲 局
六月七日 中國及四國地方へ出張ヲ命ス	全
八月十二日 千葉縣下へ出張ヲ命ス	全
農 務 省 八月二十日 京都府へ出張ヲ命ス	内 省
九月九日 愛知、三重、西縣下へ出張ヲ命ス	茅二水博
十月廿六日 叙從三位 特旨ヲ以テ位一級被進	全
十一月十七日 岐阜縣下へ出張ヲ命ス	臨 博
十二月二十日 事務特別勉勵ニ付金千圓賞與ス	茅二水博
全 廿一日 事務特別勉勵ニ付金八拾圓賞與ス	内 閣
廿八日 銀牌下賜 右審査事務ニ勉勵セシメ賞シ茲ニ之ヲ授與ス	賞 勲 局
三十年 三月八日 農商工高等會議臨時議員被仰付 六月廿七日 法典調査會委員ノ職ヲ奉シ尽力不貳ニ付銀盃壹組ヲ賜フ	賞 勲 局

三十二年	七月四日	事務格別勉勵ニ付金貳百圓賞與ス	牙二水博
	八月十五日	塩業調査會々長被仰付	内閣
	九月五日	京都府下、出張ヲ漏託ス	農商務省
	全 十二日	明治二十七八年事件、際尽力不勤ニ付其賞トシテ特ニ金參百圓ヲ賜フ	陸軍省
	十月十五日	栃木縣下、出張ヲ漏託ス	農商務省
	全 廿二日	牙二部兼務ヲ命ズ	法典調査會
三十一年	一月廿一日	明治廿九年六月三陸海嘯、際宮城、岩手、青森、青森縣下罹災者、全檢圓救恤候段可特ニ付為其賞木金壹箇下賜候事	賞勳局
	三月十五日	大阪府下、出張ヲ命ズ	農商務省
	九月二十日	明治二十九年六月三陸海嘯、際宮城、岩手、青森縣下罹災者、全檢圓救恤候段可特ニ付為其賞木金壹箇下賜候事	農商務省
三十三年	六月十二日	明治三十年牙二水産博覽會開設、際審査官長為、職務、電勉ニ其勞勩カニ依、為其賞銀金壹組下賜候事	賞勳局
三十四年	一月十九日	牙五回内閣勸業博覽會評議員被仰付	内閣
	六月一日	事務格別勉勵ニ付金貳百圓賞與ス	牙五博
	九月廿日	東京府下及神奈川埼玉群島千葉茨城栃木金山梨長野宮城福島奈良和歌山十二縣下、出張ヲ命ズ	
	十一月廿日	牙五回内閣勸業博覽會審査牙三部長被仰付	内閣
三十六年	二月十三日	本局大阪出張所、出張ヲ命ズ	牙五博

氏名

過新次

舊藩 松本藩
舊氏名

族府縣 東三府手氏

生年月日 天保十三年正月九日

地産 信濃国松本

年 號 月 日

官記 辭令 及其他 事故

官廳

明治十九年 三月三日

任文部次官

内閣

廿五日

叙勅任官二等賜下級俸 (年俸三千五百)

四月十日

大日本教育會々長ニ選舉セラル

五月十五日

仏學會々長ニ選舉セラル

二十年 五月廿八日

臨時尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員檢定委員長ヲ命ズ

二十一年 五月七日

博士會議委員ヲ命ズ

文部省

七月九日

伊學振會々長ニ選舉セラル

九月十五日

賜上級俸 (年俸四千四)

内閣

農商務省

廿一年 九月廿七日

臨時全國宝物取調委員長被仰付

官内省

廿三年 十二月一日

受年力ヲ教育ニ尽シ本年第三回内閣勸業博覽會審査官トナリ初五部長ヲ担任シ所屬審査官ノ分掌ヲ選定

監督シ物品ノ審査事務ノ整理共ニ能ク

奉リ其功効顯著ナリトス依テ明治十四

年十二月七日

勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ之ヲ表彰ス

文部省所管事務政府委員被仰付

陞叙勅任官等賜下級俸 (年俸四千五百)

叙勅二等賜瑞宝章

特命ヲ以テ位一級被進

叙正三位

官内省

賞勲局

賞勲局

賞勲局

賞勲局

賞勲局

廿九年三月廿三日	依願免本官	内閣
廿九年三月廿三日	本年一月廿二日大日本教育会臨時総集 会に於て会長に選挙セラレシトコ ロ今年三月廿二日承諾シテ就職ス	
六月八日	臨時全国宝物取調委員被免	官内省
十二月廿日	東京女子館長ヲ兼任セラル	
廿七年三月九日	明治廿七年勅令ヲ二十三号ノ旨ニ依リ 大樽二十五年祝典之章ヲ授賜ス	
七月九日	大日本帝国大樽二十五年祝典之章之記	
九月廿八日	仁壽生年保險會員社長ニ選挙セラル	
廿九年一月廿一日	貴族院令ヲ一条四項ニ依リ貴族院 議員ニ任ス	内閣
廿九年十月廿七日	錦鶏間祇候被 仰付	官内省
廿四年十月廿五日	高等教育會議員被 仰付	内閣
十一月廿九日	第五回内閣勸業博覧会審査第九部 長被 仰付	
十二月八日	帝國教育會會長ニ選挙セラル	
廿五年二月廿八日	第五回内閣勸業博覧会評議員被 仰付	
十二月廿日	手考トシテ金部百回給與ス	官内省
廿六年二月十七日	本局大及出張所ノ出張ヲ令ス	

農 務 省

氏名

安廣 伴一郎

舊藩 舊氏名

族府 籍縣 福岡縣 手氏

生年 安政六年十月

地産

年 號 月 日

官 記 辭 命 及 其 他 事 故

官 廳

三十五年 五月 八日

任内閣書記官長

内閣

叙高等官二等

三十五年 九月 廿六日

貴族院令第一條四項、依り貴族院議

員、任ス

十月 十九日

依願免本官

十一月 十日

特旨ヲ以テ位一級被進

叙從四位

十二月 廿日

叙勳四等授瑞寶章

四十四年 六月 五日

任農商務總務長官

農 務 省

叙高等官一等

六月 五日

第五回内閣勸業博覧会事務官長 官制ニ依リ

六月 十四日

鐵道會議々員被仰付

林野整理審査會々長被仰付

七月 廿三日

港灣調査會委員被仰付

七月 廿五日

日本興業銀行 設立委員被仰付

十月 五日

東京高等工業學校南議委員ノ囑託ニ

十二月 九日

農商務有所管事務政府委員被仰付

全 廿日

手考トシテ金四百圓給與ス

廿四日

令文 金貳百五拾圓給與ス (林野)

十二月 廿日

福岡縣下ノ出張員

三十五年 二月 三日

兼任製鐵所長官

叙高等官一等

三月十八日	製鐵所支北令官ノ令又	農商務省
三月十八日	製鐵所支官普通懲戒委員長ノ令又	農商務省
三月十八日	政務調査委員被仰付	内閣
四月十四日	文官高等懲戒豫備委員被仰付	内閣
四月十七日	日本興業銀行設立委員被免	農商務省
四月十七日	免兼官	農商務省
六月十九日	手考トシテ金五百円付給ス	内務
六月十八日	製鐵事業調査委員ノ令又	農商務省
十月十六日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内務
十月十九日	米國博覧會奉同準備委員長ノ令又	農商務省
十二月八日	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
十二月十八日	手考トシテ金五百円付給ス	内務
十二月廿三日	事務格別勉勵ノ令三百円付給ス (林野)	農商務省
三月廿八日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内務
四月一日	港灣調査會規則廢止 勅令(廿九年)	内務
四月十七日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内閣
五月十四日	農商務省所管政府委員被仰付	内閣
五月二十日	製鐵事業調査委員ノ令又	農商務省
五月二十日	叙勲三等授瑞寶章	農商務省
五月二十日	内閣書記官長在職中明治三十三年清國	
五月二十日	事考ニ於テ九切ニ依リ勲三等瑞寶章	
五月二十日	及金千二百円ヲ授ケ賜フ	
六月五日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内務
六月廿四日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内務
七月十一日	米國博覧會奉同準備委員長ノ令又	農商務省
七月廿四日	本局大坂出張所ノ出張ノ令又	内務

農 務 省

農務省事務局

九月三日 依願免本官

農商務省

氏名

平山 成信

舊藩 静岡藩
舊氏名 成一郎

族府 静岡縣士族

生年 安政元年十月

地産

年 號 月 日

官 記 辭 令 及 其 他 事 故

官 廳

明治三十年十月八日

任内閣書記官長

内閣

〃

叙高等官一等

〃

三十二年一月十二日

依願免本官

〃

〃

特旨ヲ以テ位一級被進

宮内省

〃

叙從三位

〃

十一月九日

任大藏省参興官

内閣

〃

叙高等官一等

〃

三十二年九月廿一日

兼任行政裁判所評定官

〃

〃

叙高等官一等

〃

農 務 省

十二月廿七日

叙勲三等授瑞寶章

大藏省

三十二年一月十二日

関稅率ニ関スル調査委員ヲ命ズ

内閣

〃

御用有之仙園、被差遣

内閣

〃

出奔

〃

四月二日

巴里萬國博覽會附屬萬國學藝會議ノ

〃

〃

内閣稅規則勳産不動産萬國會議ノ委

〃

員トシテ卷列被仰付

〃

官制改正ニ依リ廢官

〃

任大藏省官房長兼行政裁判所評議

〃

定官

〃

叙高等官一等

〃

七月廿一日

歸朝被仰付

〃

〃

歸朝

〃

十月廿二日

歸朝

〃

手島 精一

舊氏名 舊藩

族府 千葉縣 士族 生年 嘉永二年十月廿八日 地産

年 號 月 日 官 記 辭 令 及 其 他 事 故

明治三年六月廿日 任文部省實業教育局長 内閣

叙高等官二等

十月廿五日 依願免本官

十二月十日 叙從四位

特旨ヲ以テ位一級被進

同 三年二月九日 任東京工業學校校長 内閣

叙高等官三等

三月十五日 陞叙高等官二等

十月十二日 賜一級俸

農 商 務 省

同 三十四年一月十九日 第五回内國勸業博覽會評議員被仰付 内閣

六月一日 事務格別勉勵并金貳百圓賞與又

七月廿四日 日本酒釀造改良實驗及講習所設置 農商務省

調査委員ヲ薦託ス

十一月廿九日 第五回内國勸業博覽會審査第七部長 内閣

被仰付

同 三十五年四月十日 大阪府下、出張ヲ命ス 同

十二月廿二日 年当トシテ金貳百圓給與ス

同 廿七日 叙勲三等授瑞寶章

同 三十五年五月十六日 本局大阪出張所へ出張ヲ命ス 同

二月十七日 本局大阪出張所へ出張ヲ命ス

氏名

中澤岩太

舊藩
舊氏名

族府
籍縣
東京府士族

生年
日
安政五年三月廿九日

地産

年
號
月
日

官
記
辭
令
及
其
他
事
故

官
廳

明治廿四年八月廿四日

工學博士ノ學位受領

三十年六月廿八日

任京都帝國大學理科大學教授

内閣

補京都帝國大學理工科大學長

三十三年五月一日

御用有之佛國、被差遣

三十四年五月三十日

第五回内閣勸業博覽會評議員被仰付

閣

十一月廿九日

第五回内閣勸業博覽會審査第五部

長被仰付

三十五年二月廿日

總長不在中事務代理ヲ命ス

四月十六日

任京都高等工藝學校校長兼京都帝内閣

農商務省

國大學理工科大學教授

叙高等官二等

賜一級俸

十二月廿二日手当トシテ金貳百圓給典ス

三十三年一月廿九日

陞叙高等官一等

(兼官ノ分)

三月十八日

叙從四位

同日

免兼官

二月十七日

木局大阪出張所へ出張命令

六月三十日

叙勲三等授瑞宝章

氏名	官職	年	月	日	官記	辭令	及其他	事故	官廳
武井守正	舊藩 施路藩 舊氏名 逸之助	兵庫縣士族	天保十三年三月						
		明治廿一年十月十九日			任鳥取縣知事				
		六月十九日			叙奏任官一等賜上級俸				
		十一月廿九日			叙勲四等賜瑞寶章				
		三月廿七日			大日本帝國憲法發布紀念章ヲ授テス				
		七月八日			叙勅任官二等賜下級俸				内閣
		七月十一日			叙從四位				
		十月十日			改定地方官々制及官等俸給				
		二十四年四月九日			非職被仰付				内閣
		八月十六日			官等俸給令廢シ俸給制ニ改ム				
		十二月廿二日			貴族院令第條四項ニ依リ貴族院議				農商務省
					負任ス				
		十二月廿日			依願免本官				
		廿五年一月廿一日			任石川縣知事				
		二月二日			依願免本官				
		廿八年一月廿八日			土木會本被仰付				
		二月廿九日			第七回帝國議會召集ノ際勵精ニ付銀				
					孟志組ヲ賜フ				賞勲局
		三十一年五月廿二日			特使ヲ以テ位一級被進				
					叙正四位				
		三十三年三月三十日			日本興業銀行設立委員被仰付				内閣
		三十五年五月廿日			華僑國勸業博覽會審査第二部長被仰付				
		十二月廿日			手當トシテ金貳百圓給テス				華僑勸業博覽會事務局

三十年二月十七日 本局大阪出張所へ出張ヲ命ス

第百四十四号
博覧會事務局

農
商
務
省

氏名

真野文二

舊藩 徳川藩
舊氏名 文次郎

族稱 諍岡縣士族

生年 文久元年十一月

地産 武藏國豊島郡本郷町

年 號 月 日

官記 辭令及其他事故

官廳

明治八年四月十六日

工學專門官費入寮申付候事

工學寮

十四年五月十四日

工部大學校卒業工學士ノ位ヲ受ク

廿四日

任工部七等技手

月給廿四

工部省

六月一日

教授補申付候事

工作局

十五年七月十五日

任工部六等技手

月給廿五

工部省

九月十一日

任工部大學校助教授

年俸四百廿四

工部省

十六年十二月廿六日

年俸四百八十四下賜候事

工部省

十七年十二月三日

任工部大學校助教授

太政官

全

年俸六百四下賜候事

農商務省

十八年二月廿五日

叙正八位

農商務省

十二月廿三日

工部省被廢工部大學校ハ工部省ノ被廢

十九年三月一日

勅令第三号帝國大學令公布ニ付工部大學校被廢

三月六日

任工部大學助教授

内閣

四月十日

叙奏任官六等

内閣

六月廿日

依願免本官

文部省

七月二日

為機械工學水工科修業滿三年英國留學申付候事

内閣

廿五日

但カラスニ一大學ニ於テ修業スヘシ

文部省

十一月三日

横浜出帆

文部省

十一月三日

クラスニ入ル

文部省

廿五年	五月廿六日	大坂郵便電信局暖房器布設及東京郵			
廿四年	十二月廿一日	叙正七位			
廿四年	八月十六日	依願免兼官 俸給令改正三付九級俸相当			
廿四年	三月廿三日	依願免兼官			農商務省
廿三年	十一月一日	夙ニ工學ヲ研究シ本年第三回内國勸業博覧會審査官ト爲リ用テ到錦密能ク職務ニ服シ其勞勩顯著ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ之ヲ表彰ス			賞勳局
廿三年	三月十日	叙奏任官四等 年俸三百六十円下賜			農商務省
廿三年	三月十日	第三回内國勸業博覧會審査官被仰付			農商務省
廿三年	九月廿二日	帰朝			
廿三年	十月十五日	任工部大學教授 叙奏任官四等 上級俸下賜			内閣 文部省
廿三年	五月一日	文部大臣ノ許可ヲ經テクラスゴ一府出發併獨瑞末等ノ諸國ヲ巡回ス			
廿二年	九月十九日	ニウカワスルアーノムトロンガ工場ニ入り實地研究			
廿二年	五月五日	クラスゴ一府大博覧ニ於テ銀牌一箇及公博覧會機械長クライツン氏ヨリ賞状ヲ受テ			
廿二年	十月	クラスゴ一府大博覧工場ニ入ル			

		便電信局郵便物揚卸器並電報紙受器 設置ニ付該工事ノ設計及監督ヲ囑 託ス	
		但囑託中報酬トシテ一月金五十圓給与ス	逓信省
		十一月廿日 高等官ニ等俸給令實施ニ付高等官六 等	
廿六年	二月廿日	東京府ノ轉籍	
	九月十日	帝國大學令等改正	文部省
		本俸ニ級俸下賜	
	十二月廿六日	陞叙高等官五等	總理大臣
廿七年	二月廿八日	叙從六位	
	七月廿七日	給水掛監督ヲ命ス	帝國大學
廿八年	三月十九日	第四回内閣勸業博覽會審査官被仰付	内閣
			農 商 務 省
廿九年	一月廿一日	陞叙高等官四等	總理大臣
	三月廿六日	明治廿八年第四回内閣勸業博覽會審査 官ト爲リ周到綿密能ク職務ニ服シ其勞 効顯著ナリトス仍テ褒章條例才三 條ニ依リ爵ヲ授ケシ藍綬褒章ニ附 ス(ノ飾版一箇ヲ賜ヒ再ヒ之ヲ表彰ス	賞勳局
	三月廿日	叙正六位	
	九月十日	本學年中高等商業學校機械工学科 講師ヲ囑託シ爲手当トシ年百五十圓給 與	高等商業學校
卅年	三月十六日	出立ニ関スル事項ノ調査ヲ囑託ス	臨時事務局
	四月廿七日	俸給令改正ニ依リ五給俸	
	五月廿八日	兼任農商務省特許局審判官	總理大臣

曰
第五回内国勸業博覧會審査第八部長
被仰付

農
商
警
省

前

二月十七日本局大阪出張所へ出張命令

農
商
務
省

平賀義美

舊藩 福岡藩
舊氏名

族府 福岡縣士族
年 號月 日 官記 辭令 及其他 事故
地註 福岡西新町七十三番地

廿三年三月十四日 任農商務三等技師
官 廳 農商務省

廿三年三月十二日 兼任特許局審判官
口

廿四年四月廿七日 任農商務二等技師 (兼官如故)
口

八月十六日 任農商務技師 (兼官如故)
口

廿五年二月廿二日 叙正六位
宮内省

廿六年五月三十一日 依願免本官兼兼官
内閣

廿九年三月廿八日 叙勳二等授瑞宝章
内閣

八月三日 府立大坂博物館長ヲ囑託ス
大坂府

十一月十四日 臨時博覽會評議員被 仰付
内閣

三十年三月十二日 兵庫縣主催第六回関西府縣聯合商外
農商務省

廿二種共進會審査長ヲ囑託ス
京都府
京都府
京都府

五月十四日 京都市工業顧問囑託ス
京都市
京都市
京都市

八月三十日 大坂市南區製産品評會審査長ヲ囑託ス
大坂府
大坂府
大坂府

託ス

三十年二月二日 年俸貳千五百圓給與ス
同

三月八日 農商工高等會議臨時議員被 仰付
内閣

同日 第三回五二會全國品評會審査長トシテ
農商務省

兵庫縣ハ出張ヲ囑託ス

四月一日 文際賞年額五百圓支給ス
大坂府

六月廿七日 改采各國商工業視察ヲ囑託シ旅行手
農商務省

當トシテ金四千圓給與ス

但六月廿九日 横濱出發三十年三月十日 帰朝

十一月八日大坂工業學校商議委員囑託ス 文部省

三十三年三月廿七日博士會ニ於テ學位ヲ授クマキ學力アリト 文部大臣

認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十

四号學位令第二条ニ依茲ニ工學博士ノ

學位ヲ授ク

三十三年三月十三日高等工業學校創立設計委員ヲ囑託ス 文部省

三十四年十一月十九日第五回内閣勸業博覽會審査第六部内 閣

長被 仰付

三十五年二月廿八日第五回内閣勸業博覽會評議員被仰付

十二月廿二日午当トシテ金貳百圓給與ス

勸業博覽會事務局

農 商 務 省

新山莊輔

舊藩 山口藩
舊氏名

氏名	族籍	年 號 月 日	官 記 辭 令 及 其 他 事 故	官 職
新山莊輔	山口縣士族	明治廿二年七月廿三日	任主馬寮技師	官 廳
		廿九年十月廿五日	叙五等勳四級俸	
		廿二年十二月廿七日	叙勳六等授瑞宝章	賞 勳 局
		廿三年一月廿日	叙正六位	宮 内 省
		一月廿五日	宮崎唐見島二郡下出張ノ命ス	
		一月廿九日	種牛改良調査委員ノ命ス	
		六月廿日	政米各國へ出張ノ命ス	宮 内 省
		七月廿六日	巴里萬國博覧會出品馬匹陳列ノ狀況視察ヲ囑託	農 商 務 省
		三十四年三月十九日	事務格別勉勵ノ付金ヲ振付ケル	
		九月四日	京都府主催開設第一回京攝府縣聯合家畜共進會審査長トシテ令府へ出張ヲ命ス	
		十月廿日	陸叙高等官四等	
		廿五年八月廿日	第三回中國五州聯合畜産共進會審査長トシテ岡山縣へ出張ノ命ス	
		九月十九日	岡山縣下へ出張ノ命ヲ以テ七塚泉種牛牧場へ出張ノ命ス	
		十二月二日	岡山縣出張ノ命ヲ以テ兵庫縣下へ出張ノ命ス	
		十二月廿三日	種牛改良調査委員ノ勤勞不貲ニ付金百円ヲ賞與ス	

廿六年 二月十七日

第五回内閣勸業博覧会審査官被仰付

第一部勸業ヲ命ス

九月四日

七塚系種牛取扱ノ出展ヲ命ス

農商務省

磯部正春

舊藩 山口藩
舊氏名 磯部百輔

氏名	族府籍縣	生年	地産	官記	辭命及其他事故	官廳
磯部正春	山口縣士族	慶應元年三月八日	山口縣佐波郡面尾村	試補ノ命		官廳
		廿三年七月十五日		年俸金六百圓下賜		
		廿四年八月廿四日		法制局試補ノ命		
		廿五年十月十六日		鐵道廳事務官試補ノ命		
		廿五年十月廿四日		鐵道廳事務官		内閣
		廿六年一月廿七日		叙任七位		官内省
		廿七年一月廿九日		兼任農商務省特許局審判官		内閣
		廿八年四月十六日		叙高等官七等		
		廿八年十月一日		兼任農商務省特許局審判官		内閣
		廿八年十月廿七日		叙高等官七等		官内省
		廿九年十二月十七日		兼任農商務省特許局審判官		内閣
				叙高等官六等		官内省
				六級俸下賜		農商務省

世 一 年	一月廿六日	特許意見及商標三條例改正調査委員ノ命ス		
	二月廿九日	職工條例調査委員ノ命ス		
	八月三日	任農商務省特許局審判官兼農商務省考査事官	内閣	
		叙高等官六等		
		六級俸下賜	農商務省	
	九月廿六日	御用有之白耳義國ノ被派遣	内閣	
世 一 年	一月廿八日	職工條例調査委員ノ命ス	農商務省	
		森林法調査委員ノ命ス	内閣	
	五月十七日	大臣官房文書課長ノ命ス	内閣	
	全 十七日	農商務省文官普通試験委員ノ命ス		
	六月廿九日	陞叙高等官五等	内閣	
		農商務省		
		四級俸下賜	農商務省	
	九月十日	林野官民有區分調査委員ノ命ス	内閣	
		叙從六位		
	十月一日	五等	官内省	
		(明治卅一年十月) 勅令第三百九十九号(依)		
		二級俸 (全 上)		
世 二 年	一月廿日	條約実施委員ノ命ス		
	四月十日	農商務省文官普通懲戒委員ノ命ス		
	五月十日	林野下査審査委員ノ命ス		
	六月十九日	特許代理業考試試験委員ノ命ス		
	九月廿日	任農商務書記官兼農商務省特許局審判官	内閣	
		兼農商務省考査事官以故		
		叙高等官五等		
		四級俸下賜	農商務省	

世三年	五月十六日	吳統計課長米國出張中統計課長代理ヲ命ス	
	六月六日	第五回内國勸業博覽會調査委員ヲ命ス	
	六月十二日	第五回内國勸業博覽會事務官被仰付	内閣
	六月十六日	庶務課長ヲ命ス	第五回内國勸業博覽會事務局
	六月廿日	臨時博覽會事務官被仰付	内閣
		林事務官長佛國出張中事務官長代理ヲ命ス	
		河北庶務課長佛國出張中庶務課長代理ヲ命ス	
	七月七日	陞叙高等官四等	内閣
		三級俸下賜	
世四年	十月十日	叙正六位	官内省
	六月一日	元臨時博覽會事務局殘務取扱ヲ命ス農商務省庶務掛主任ヲ命ス	
	六月十一日	大阪府下出張ヲ命ス	
	七月六日	二級俸下賜	
	十月廿一日	明治三十三年臨時博覽會ニ付盡力其勞不計依テ銀杯一組ヲ賜フ	
	十月廿日	手取トシテ金二百円給與ス	第五回内國勸業博覽會事務局
世五年	三月廿日	元臨時博覽會事務局殘務取扱ヲ免ス	農商務省
	六月十九日	手取トシテ金四百円給與ス	第五回内國勸業博覽會事務局
	九月廿日	陞叙高等官三等	内閣
		一級俸下賜	
	十月七日	御用有之米國被差遣	農商務省

農商務省

上月廿七日	本局大阪出張所出張ヲ命ス	第五内閣勸業 博覽會事務
令十九日	米國博覽會參同準備委員ヲ命ス	農商務省
十二月十日	叙從五位	宮内省
十二月六日	手當トシテ金參百圓給與ス	第五内閣勸業 博覽會事務
廿六年	三月廿日	本局大阪出張所、隨時出張ヲ命ス
令廿七日	會計課長兼務ヲ命ス	第五内閣勸業 博覽會事務
第五内閣勸業博覽會仕掛命令官ヲ 命ス		
六月廿六日	叙勲六等瑞宝章	
六月三日	京都市、出張ヲ命ス	博覽會事務

農 商 務 省

氏名	生年	籍	官歴	官職
織田 一太郎	元治元年四月廿日生	愛知縣中島郡下郡村	舊氏名	一太郎
織田 一太郎	明治廿二年七月十日	法科大學政治科卒業	明治廿二年七月十日	内務省
織田 一太郎	明治廿四年七月廿日	内務省試補ヲ命ス	明治廿四年七月廿日	内務省
織田 一太郎	明治廿五年六月廿日	事務格別勉勵付金五拾円ヲ賞與ス	明治廿五年六月廿日	農商務省
織田 一太郎	明治廿五年十月廿四日	任貴族院書記官	明治廿五年十月廿四日	内閣
織田 一太郎	明治廿五年十月廿日	議事課勤務ヲ命ス	明治廿五年十月廿日	貴族院
織田 一太郎	明治廿五年十一月十日	叙從七位	明治廿五年十一月十日	内閣
織田 一太郎	明治廿五年十一月十日	事務格別勉勵付金百五拾円ヲ賞與ス	明治廿五年十一月十日	貴族院
織田 一太郎	明治廿五年十一月十日	編纂課兼務ヲ命ス	明治廿五年十一月十日	内閣
織田 一太郎	明治廿五年十一月十日	編纂課課長議事課兼務ヲ命ス	明治廿五年十一月十日	内閣
織田 一太郎	明治廿五年十一月十日	事務格別勉勵付金七拾円ヲ給與ス	明治廿五年十一月十日	内閣
織田 一太郎	明治廿五年二月十九日	非職ヲ命ス	明治廿五年二月十九日	内閣
織田 一太郎	明治廿九年四月廿日	任農商務省卷事官	明治廿九年四月廿日	内閣
織田 一太郎	明治廿九年四月廿日	叙高等官六等	明治廿九年四月廿日	内閣
織田 一太郎	明治廿九年四月廿日	六級俸下賜	明治廿九年四月廿日	内閣
織田 一太郎	明治廿九年四月廿八日	叙任農商務省特許局審判官	明治廿九年四月廿八日	内閣
織田 一太郎	明治廿九年四月廿八日	叙高等官六等	明治廿九年四月廿八日	内閣

五月三十日	叙正七位	宮内省
六月六日	農商工高等會議幹事被仰付	内閣
六月九日	徳島香川高知三縣下へ出張ヲ命ス	農商務省
六月廿七日	森林法調査委員ヲ命ス	
六月廿九日	農商工高等會議ニ関シ特ニ勉勵ニ付	
十二月十日	金百圓賞與ス	
十二月廿二日	足尾銅山鑛毒特別調査委員ヲ命ス	
全 廿四日	事務格別勉勵ニ付金七十四圓賞與ス	
三十年一月廿一日	特許責匠及商標三條例改正調査委員ヲ命ス	
全 廿九日	職工條例調査委員ヲ命ス	
三月廿六日	足尾銅山鑛毒事件調査委員被仰付	内閣
六月廿二日	任農商務書記官	農商務省
六月廿二日	叙高等官六等	農商務省
	六級俸下賜	
	大臣官房文書課長ヲ命ス	
	農商工統計ニ関スル特別調査委員ヲ命ス	
八月五日	臨時博覽會事務官被仰付	内閣
十一月廿七日	足尾銅山鑛毒事件調査委員被免	内閣
十二月廿一日	事務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	臨時博覽會事務官
廿一年一月廿九日	職工條例調査委員ヲ免ス	農商務省
	森林法調査委員ヲ免ス	
四月廿六日	農商務省文官普通試験委員ヲ命ス	全
五月十日	任農商務大臣秘書官兼農商務省	全

参事官

叙高等官五等

四級俸下賜

大臣官房秘書課長ヲ命ス

同日 統計及官報々告主任ヲ免ス

同日 神奈縣下、出張ヲ命ス

同日 叙從六位

六月六日 文書課長ヲ命ス

同日 事務格別勉勵、付金參百圓賞與ス

同日 任農商務省参事官兼農商務大臣内 閣

秘書官

叙高等官五等

四級俸下賜

農商務省

七月六日 林事務官長不在中同官事務代理

同日 兼任學習院教授

同日 叙五等

八月十一日 大坂大林區署管内、出張ヲ命ス

同日 御用有之清國、被差遣

同日 大臣官房秘書課長ヲ免ス

同日 臨時博覽會事務官被免

同日 事務格別勉勵、付金百圓賞與ス

同日 宮城縣開設ノ一府十六縣聯合勸業會

同日 出張ヲ命ス

同日 大坂府下、出張ヲ命ス

同日 事務格別勉勵、付金百七拾五圓賞與ス農商務省

四月十日 農商務省文官普通懲戒委員ヲ命

ス

五月十二日 林野下実審査委員ヲ命ス

六月五日 農商工高等會議幹事被仰付

六月十九日 特許代理業者試験委員ヲ命ス

八月五日 神奈川縣下、出張ヲ命ス

九月廿一日 兼任行政裁判所評定官

叙高等官五等

十二月十五日 事務格別勉勵、付金一百円賞与ス

十二月廿六日 京都府及奈良三重愛知静岡滋賀、五縣、出

張ヲ命ス

三十三年 一月十九日

府縣聯合共進會調査委員ヲ命ス

三月二十日

事務格別勉勵、付金七拾円賞与ス

農商務省

四月廿八日

慶和縣下、出張ヲ命ス

五月三十四日 叙叙高等官四等 (本官)

日 叙叙高等官四等 (本官)

六月十日 三級俸下賜

六月十日 三級俸下賜

六月十日 第五回内國勸業博覽會事務官被仰付

六月十日 文書課長ヲ命ス

九月八日 出呂課長心得ヲ命ス

九月廿一日 叙正六位

九月廿九日 總務局人事課長ヲ命ス

十月 五日 神奈川縣下、隨時出張ヲ命ス

十月 廿日 千葉縣下、出張ヲ命ス

十一月廿日 山口廣島福岡三縣下及六政府下(出張ヲ命ス)

十二月十日 陸叙高等官四等(行政裁判所評定官)

内閣

出省

内閣

内閣

農商務省

内閣

第五回

同

宮内省

農商務省

農商務省

農商務省

内閣

めくれば

十月廿五日 事務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス 農商務省
十月廿七日 残品整理ニ関スル取調ヲ囑託ス 臨博
十二月廿三日 事務格別勉勵ニ付金百五十圓賞与ス

事務格別勉勵ニ付金百五十圓賞与ス 臨博

三十四年 三月十六日 神奈川縣下、出張ヲ命ス 農商務省

三月廿二日 事務格別勉勵ニ付金百五十圓賞與ス 日

五月一日 京都府及岐阜縣、出張ヲ命ス 日

同日 事務格別勉勵ニ付金六百圓賞与ス 臨時博覽會 農商務省

六月一日 元臨時博覽會事務局長殘務取扱ニ付 農商務省
文書掛主任ヲ命ス

農 務 省

二級俸下賜

六月十一日 叙 四等 (學子習院教授)

同日 事務格別勉勵ニ付金百圓賞与ス 日 農商務省

十月八日 大坂府及和歌縣、出張ヲ命ス 日

同日 明治三十三年臨時博覽會ニ付盡力其 日

勞不貳依テ銀盃一組ヲ賜フ

十二月廿三日 手當トシテ金貳百五十圓給与ス 日 農商務省

同日 日文 金參百圓給与ス (殊務) 農商務省

三十五年 一月廿七日 大坂府、出張ヲ命ス 日 農商務省

同日 文書課長ヲ免ス 日 農務省

同日 出品課長兼審査課長ヲ命ス 日 農務省

三月廿七日 手當トシテ金五百圓給与ス 農商務省

三月三十日 元臨時博覧會事務局残務取扱
ヲ免ス

三月十九日 神奈川県下、出張ヲ命ス

五月廿九日 大坂府下、随時出張ヲ命ス

五月二日 陞叙高等ノ事

六月二日 一級俸下賜

全 十九日 手當トシテ金四百圓給テス

十月廿日 叙從五位

十一月一日 京都府、出張ヲ命ス

十一月九日 米國博覧會参り準備委員ヲ命ス

十二月廿三日 事務格別勲励ニ付金三百圓賞テス

同十八日 手當トシテ金四百圓給テス

同 京都市、出張ヲ命ス

七月十一日 米國博覧會参り準備委員ヲ免ス

農 商 務 省

同 内閣

同 農商務省

同 農商務省

同 農商務省

同

同

同

氏名

山脇春樹

田名

東京府士族

明治五年五月

年 月 日 官 職 経 歴 等 其 他 事 務

官 職

明治五年七月 東京帝國大学法科大学政治学科卒業

十月 文官高等試験合格

十月廿四日 任大蔵属

任大蔵属

大蔵省

主計局勘務官房第三課金務ノ命ス

令

主税局金務ノ命ス

令

任司税官

内閣

叙高等官七等

大蔵省

三級俸下賜

大蔵省

農 務 省

東京税務管理局在勤ノ命ス

令

所得審査委員ノ命ス

令

叙従七位

官内省

事務總局加身令八拾四回考査

大蔵省

任農商務大臣秘書官

内閣

叙高等官六等

令

叙任大蔵省参事官

令

叙高等官七等

農商務省

七級俸下賜

農商務省

總務局人事課勤務ノ命ス

令

神奈川縣下ニ隨時出張ノ命ス

令

平田農商務大臣大阪府及福島縣下ニ出張ニ隨時ノ命ス

令

農商務省又官普通懲戒委員ノ命ス

令

三月十日

三月七日

二月十日

四月十日

四月廿二日

七月十八日

七月廿二日

八月廿七日

八月廿一日

九月十七日

今	十月廿日	叙正七位	内
今	十月廿日	平田農商務大臣福島縣下出張ニ付随行シ余ス	才五内侍
今	十月廿日	手当トシテ金二百両給付ス	農商務省
今	十月廿日	事務終別勉勵ニ付金五百両賞付ス	内閣
今	十月十日	陞叙高等官六等 (兼官)	才五内侍
今	十月廿日	文書深長ヲ余ス	農商務省
今	三月十二日	六段清下賜	農商務省
今	三月十六日	千室縣下出張ヲ余ス	農商務省
今	三月廿七日	元臨時博覧會事務局職務ニ関シ特別ノ勤勞アリ依リ手当トシテ金三百両給付ス	農商務省
今	四月九日	平田農商務大臣京都府外一府五縣出張ニ付随行シ余ス	農商務省
今	六月五日	平田農商務大臣静岡縣出張ニ付随行シ余ス	才五内侍
今	八月十九日	手当トシテ金四百両給付ス	才五内侍
今	八月一日	大阪府下出張ヲ余ス	内閣
今	十月廿日	本局大阪出張所出張ヲ余ス	内閣
今	十月十九日	米國博覧會奉同準備手当ヲ余ス	農商務省
今	十二月二日	陞叙高等官五等	内閣
今	十二月二日	八段清下賜	農商務省
今	十二月四日	文官普通試験委員ヲ余ス	内閣
今	十二月八日	千室縣下出張ヲ余ス	内閣
今	十二月廿日	事務終別勉勵ニ付金三百両賞付ス	才五内侍
今	十一月六日	手当トシテ金四百両給付ス	才五内侍
今	十一月九日	大阪府下出張ヲ余ス	農商務省

一月廿日	大坂府下へ出張、序ヲ以テ福岡縣下へ出張ヲ余ス	
二月十三日	大坂府下へ出張ヲ余ス	農商務省
三月廿日	令上	令
三月廿日	叙従六位	
四月四日	静岡縣下へ出張ヲ余ス	令
六月六日	本局大坂出張所へ随時出張ヲ余ス	才五内侍
八月十二日	京都市へ随時出張ヲ余ス	令
七月十日	水戸博覽會奉同準備委員ヲ免ス	
八月四日	任農商務書記官兼農商務大臣秘書官 (兼大藏省参事官ハ故)	内閣
	叙高等官五等	
	五坂俸下賜	
七月廿五日	千葉縣下へ出張ヲ余ス	農商務省 才五内侍

下啓助

舊藩 旧幕府

舊氏名

氏名 東京府七族 月生日年 安政四年五月十三日 地産 武藏國江戸駿河臺

年 號月日 官記 辭令及其他事故 官廳

明治十七年十月二日 農商務省御用掛申付候事 農商務省

但取報判任、准シ月俸金貳拾圓給付候事

農務局事務取扱申付候事 農商務省

報告課勤務申付候事 農務局

書記局事務取扱申付候事 農商務省

第四課勤務 書記局

十二月八日 水産局勤務申付候事 農商務省

水産陳列所勤務申付候事 水産局

試業課兼勤申付候事 水産局

農商務省

十二月十二日 臨時取調御用格別勲候、付為慰勞金拾五 農商務省

圓下賜候事

日 十九年 二月 九日 大日本水産會開設水産共進會出品委員申付候 水産局

事

日 十九年 二月 三日 第三次勤業會書記申付候事 水産局

三月四日 任農商務屬 農商務省

五月十日 叙判任官七等 全上

十月二十九日 水産集談會臨席トシテ千葉縣出張申付 全上

十二月廿七日 特別ノ勤勞アルニ因リ其賞トシテ金貳拾圓下賜 全上

日 二十年 九月 三日 佐賀長等兩縣下巡回ラ命ス 全上

十二月廿六日 特別ノ勤勞アルニ因リ其賞トシテ金拾圓下賜 全上

日 廿一年 三月 廿一日 東京府外九縣聯合水産共進會 審査官トシテ 左

宮城縣石ノ巻、出張ラ命ス

同 二十二年七月九日 陞叙判任官六等 農商務省

十二月二十日 特別ノ勤勞アルニ因リ其實トシテ金拾圓下賜
二十三年三月二十日 叙判任官四等給下級俸

三月十四日 第三回内國勸業博覽會審査官ヲ命ス 農商務省
二月二十日 農務局勤務ヲ命ス

同 二十四年四月二十八日 上級俸下賜
六月十日 陸軍出仕

同日 大坂府及和歌山縣下出張ヲ命ス
八月十四日 北海道巡回ヲ命ス

八月二十日 四級俸下賜
十二月十日 特別ノ勤勞アルニ因リ其實トシテ金拾圓下賜

同日 山下賜
左 三十日 二等官 (勅令三百四十五号)

農 商 務 省

同 二十五年十二月十九日 事務格別勳励ニ付金廿五圓賞与ス
二十六年三月十六日 農務局第四課長缺員中課長事務取扱

ヲ命ス
四月十日 任水産調査所書記
四月十八日 水産調査所長員ヲ命ス (口達)

五月八日 水産調査所官験場撰定ノ為千葉縣下、出張ヲ命ス

七月二十日 藤田農務局長東京府及外二縣下出張ニ付隨行ヲ命ス

ナルニ事 事務格別勳励ニ付金八拾圓賞与ス
同 関西水産進會審査官トシテ大阪府出張ヲ命ス

十一月十日 農務局水産課長欠員中課長事務取扱

廿八年三月十九日
名産調査委員会の別
室に設置
各県の知事等に
通知

廿七年

一月十六日 三級俸下賜

四月五日 製塩試験場撲定、為神奈川千葉二
縣下、出張ヲ命ス

六月五日 石川縣下、開設スル第五回水産品評會、
審査官トシテ同縣、出張ヲ命ス

七月四日 千葉縣下千葉市開設千葉縣水産通
常會、出張ヲ命ス

八月五日 戦時影響調査委員規程第四條に
依リ調査委員に指定ス(變テ同イ)

九月十四日 大分縣下、出張ヲ命ス
十二月十五日 特別手当トシテ金三十七圓給テス

廿八年

三月廿日 京都府及ヒ兵庫縣、出張ヲ命ス

農 商 務 省

四月九日 京都本向出張所、出張ヲ命ス
四月廿日 藤田農務局長大阪府及和歌山縣、出張
中隨行ヲ命ス

五月廿日 二級俸下賜
五月廿日 水産調査會書記ヲ命ス

七月十日 香川愛媛山口廣島、四縣下、出張ヲ命ス
十月十日 兼任農商務技手

農務局勤務ヲ命ス

十月十八日 千葉縣下、出張ヲ命ス
左 廿二日 同業組合制度調査委員 口達

十二月四日 手當トシテ金五拾圓下賜
十二月廿日 静岡縣下、出張ヲ命ス
三月廿六日 事務格別勉勵、付金五拾圓賞與ス

廿九年 二月十日 京都大坂兩府下、出張ヲ命ス

三月十九日 審査事務、勳励ニ付金高松岡賞与ス

銀牌

審査事務、勳励セシテ以テ茲ニ之ヲ授子

三月廿六日

明治三十八年第四回國勤業博覽會審査

ト爲リ周到綿密能ク職務ニ服シ其勞

効顯著ナリトス仍テ明治三十八年三月七日勅定

三月廿七日

ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ之ヲ表彰ス

四月廿七日

第五回國勤業博覽會事務局官利廢セシ

水産教育事項、以テ調ヲ囑託ス

農務省

六月三日

兵庫縣、出張ヲ命ス

六月九日

愛媛宮崎鹿兒島三縣下、出張ヲ命ス

六月廿六日

貿易品陳列館商議委員ヲ命ス

七月九日

一級俸下賜

十月三日

水産教員養食成方取調ヲ囑ス

十一月十日

事務格別勳励ニ付金五拾圓賞與ス

十二月十日

水産調査會、關シ特ニ勳励ニ付金貳拾圓

廿九年 十二月十日

事務格別勳励ニ付金五拾圓賞与ス

十二月廿一日

水産教員養食成方取調ノ事、當トシテ金百貳拾圓

十二月廿八日

出張ヲ命ス

第五回國勤業博覽會事務局官利廢セシ

總裁

文部省

水産博

文部省

水産博

めくれず

三十年三月六日	第二回水産博覧會審査官被仰付	内閣
四月十四日	任水産講習所監事兼農商務技師 叙高寺官七等	
全	十級俸下賜	
全	農務局水産課勤務ヲ命ス	
四月十四日	水産講習所庶務部長ヲ命ス	
四月廿日	事務官補ヲ免ス	水産
四月廿三日	水産調査會幹事被仰付	内閣
四月廿六日	第二回水産博覧會事務官被仰付	水産
〃	出品課勤務ヲ命ス	宮内省
五月三日	叙從七位	水産
六月七日	神戸出張所、出張ヲ命ス	水産
六月十二日	水産局勤務ヲ命ス	
六月十七日	水産局水産課長ヲ命ス	農商務省
六月十七日	審査第四部勤務ヲ命ス	
〃	審査總部業務ヲ命ス	
六月十八日	出品課長心得ヲ命ス	
六月十九日	九級俸下賜	
七月廿七日	上京ヲ命ス	
八月十六日	京都府下、出張ヲ命ス	
九月一日	出品課長ヲ命ス	
〃	審査第一部業務ヲ命ス	
十月九日	上京ヲ命ス	
十月廿六日	夙々心ヲ水産ノ振興ニ傾ケ施急ニ言 議ニ力ヲ盡シ、賜シ水産講習所創設 及ヒテ銳意教術ヲ查シ罪勉教職ニ從	

三十一年
三月九日
水産講習所
監事兼農商務
技師高寺官七等
叙高寺官七等

と該所衰フニ當リ會計監督ノ事ニ任
 シ百方経紀之ヲ挽回シ遂ニ本年二月
 水産傳習所ノ施設ヲ見ルニ至ル斯業ノ
 發達ニ裨益ス所歟ナカラズ其勞効
 顯著ナリトム仍テ褒章條例第ニ
 條ニ據リ予ヲ授与セシ藍綬褒章
 三附スバキ飾放テ個々賜ニ再ニ是ヲ
 表彰ス

十二月廿七日 水産教員養生方取調嘱託、予當文部省
 トシラ金百八拾圓贈与ス

同日 予ハ 事務格別勉勵ニ付七拾九月賞与子ス 省 名
 千葉縣下、出張ヲ命ス

同日 予ハ 同業組合制度調査委員ヲ免ク同達 農 務 省

四月廿四日 八級俸下賜

同日 予ハ 千葉縣下、出張ヲ命ス

八月四日 神奈川千葉東知三縣下、出張ヲ命ス

七月四日 事務格別勉勵ニ付金百圓之を命ス 水 産

七月廿五日 第四水産博覽會事務局官制被廢

八月廿五日 塩業調査會幹事被仰付 内 閣
 十月廿五日 御用有之清國ニ被差遣
 十月廿五日 免本官專任農商務技師
 十一月一日 八級俸下賜
 十一月一日 水産局水産課長ヲ命ス
 十二月十日 塩業調査會ニ関シ特ニ勉勵ニ付金七拾
 圓賞与ス
 十二月廿日 陞叙高等官六等

十二月廿六日
 銀牌
 本會多謝勉勵
 此等功勞ニ因
 之被与ス
 此記

三十二年一月十日

十二月廿七日	水産教員養生方取調嘱託、予當文部省 トシラ金百八拾圓贈与ス	省 名
同日	予ハ 事務格別勉勵ニ付七拾九月賞与子ス	省 名
同日	予ハ 同業組合制度調査委員ヲ免ク同達	農 務 省
四月廿四日	八級俸下賜	
同日	予ハ 千葉縣下、出張ヲ命ス	
八月四日	神奈川千葉東知三縣下、出張ヲ命ス	
七月四日	事務格別勉勵ニ付金百圓之を命ス	水 産
七月廿五日	第四水産博覽會事務局官制被廢	
八月廿五日	塩業調査會幹事被仰付	内 閣
十月廿五日	御用有之清國ニ被差遣	
十月廿五日	免本官專任農商務技師	
十一月一日	八級俸下賜	
十一月一日	水産局水産課長ヲ命ス	
十二月十日	塩業調査會ニ関シ特ニ勉勵ニ付金七拾 圓賞与ス	
十二月廿日	陞叙高等官六等	

五月廿八日 叙正七位

三十二年 三月廿六日 大坂及徳島縣、出張ヲ命ス

六月廿九日 千葉縣下、出張ヲ命ス

六月廿九日 神奈川縣下、隨時出張ヲ命ス

六月廿六日 七級俸下賜

十月廿一日 愛媛高知二縣下、出張ヲ命ス

五月廿五日 事務格別勉勵ニ付金五枚山賞与ス

十二月廿五日 廣島縣下、出張ヲ命ス

三十三年 一月廿九日 府縣聯合共進會調査委員ヲ命ス

三月廿四日 御用有之御用、被差遣

四月廿七日 遠洋漢業練習生採用試験委員ヲ命ス

五月二日 巴里萬國博覽會附屬万国學藝會

農商務省

議、内水產及漁業万国會議ニ参員トシテ参列被仰付

六月廿一日 明治三十年第二回水産博覽會開設之際、廣島

事務官補等ヲ事務及及審査官ト

為リ職務、勉勵シ其功勳カラテ依

テ其功勳トシテ銀盃一組下賜ス

十一月九日 廣島山口二縣下、出張ヲ命ス

十一月廿五日 茨城縣下、出張ヲ命ス

十二月廿五日 水産教員養成所取調囑託、手当トシテ金百五十圓給与ス

文部省

三十四年 六月一日 香川縣下出張ヲ命ス

七月廿一日 京都新潟長野富山石川福井滋賀兵庫島根一府九縣下、出張ヲ命ス

農商務省

三月九年	二月廿八日	神奈川縣下、出張ヲ命ス 千葉縣下、出張ヲ命ス	農商務省
	七月九日	第五回内國勸業博覧會事務懷議 員ヲ命ス	農商務省
	八月九日	千葉縣下、出張ヲ命ス	農商務省
	十月五日	本局大坂出張所、出張ヲ命ス	農商務省
	十月十八日	宮城岩手二縣下、出張ヲ命ス	農商務省
	十二月廿三日	事務格別勉勵、付金五拾圓當員子ス	農商務省
	十二月十八日	予當トシテ金五拾圓給子ス	農商務省
	全 廿七日	五級俸下賜	農商務省
三月六年	二月廿一日	岡山、廣島、山口、福岡、熊本、五縣下、出張ヲ命ス	農商務省
	二月十七日	第五回内國勸業博覧會審査官被件付	農商務省
	二月廿一日	予三計出助給ヲ命ス 本局大坂出張所、出張ヲ命ス 岡山、山口、四縣下、出張ヲ命ス 以テ長崎縣下、出張ヲ命ス	農商務省
	七月三日	大坂博覧會之席ヲ以テ長崎縣下、出張ヲ命ス	農商務省

氏名

柘川 温

舊藩 舊氏名

府縣

福岡県

生年

明治三年二月廿六日

地籍

福岡県那珂郡華村

年 號 月 日

官 記 辭 令 及 其 他 事 故

官 廳

明治十九年 二月十八日

任農商務技生 手外

農商務省

五月十日

任農商務八等技手

三月廿一日

下級俸下賜

三月廿一日

中級俸下賜

七月九日

任農商務七等技手

中級俸下賜

三月十四日

才内内閣勸業博覧会審査官ノ余

三月廿七日

非職ノ余

農 商 務 省

九月三十日

審査官ノ充ス

十二月十日

任農商務四等技手

叙到任官四等俸下級俸

四月廿八日

上級俸下賜

八月十六日

任農商務技手

上級俸下賜

三月十三日

三等官 (勅令二百四十九号ノ旨)

十月四日

茨城县物産共进会水産物審査官トシテ日

県下ニ出張ノ余

十月廿三日

関西水産共进会審査官トシテ大阪府ニ出張ノ

余

四月九日

隸任職及産製試験ノ爲メ青森県下ニ出張

ノ余

<p>七月廿日 才二向水産博覧会事務官副被任 十月廿日 任農商務技師兼水産講習所技師 叙高寺官七等 十段俸下賜</p>	<p>廿二年 一月廿日 鹿兒島県主権十回九州冲縄外八県聯合 米外十六種共進会出品水産物審査官トシテ 令出シ出張ノ命</p>	<p>四月十日 青森県主権才三回奥羽六県聯合物産共進会 出品水産物及雜貨審査官トシテ令出シ出張ノ 命</p>	<p>五月廿日 任水産講習所技師兼農商務技師 叙高寺官七等 十段俸下賜</p>	<p>農商務省</p>	<p>六月十六日 陞叙高寺官六等 九段俸下賜</p>	<p>七月十日 叙正七位</p>	<p>上月六日 才一回福島県二果聯合水産共進会審査 長トシテ福島県下ニ出張シ命</p>	<p>廿三年 九月一日 山口県主権開港才一回関西九州府県聯合 水産共進会出品才ニ才三ニ才五ニ才ニシテ 同県下ニ出張シ命</p>	<p>九月廿日 才二回和歌山県物産共進会水産物審査 官トシテ同県下ニ出張シ命</p>	<p>十二月廿日 陞叙高寺官五等</p>	<p>廿五年 四月十日 叙従六位 八月八日 御用有之辨領印皮及清同ノ被差遣</p>	<p>内閣</p>
---	---	--	---	-------------	--------------------------------	------------------	---	---	--	----------------------	---	-----------

十二月廿日 七級俸下賜

廿六年 二月廿日 予内内同勤業博覽會審査官破仰付

才三評勤政ノ余

才三

農商務省

農
商
務
省